



THE SERVICE CLUB OF THE YMCA

AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS

The Y's Men's Club of Nagoya

CHARTERED AUGUST 27, 1947

c/o NAGOYA YMCA 35-16, DAIKAN-CHO, HIGASHI-KU, NAGOYA, 461-0002 JAPAN

"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT"

主 題 (2013 / 2014)

国際会長 「全ての世界に出て行こう」
 アジア会長 「未来を始めよう、今すぐに」
 西日本区理事 「志をもって例会に参加し、学びの機会を持ちましょう」
 中部部長 「長所を活かして生き生きと！」
 名古屋クラブ会長 「出会い、ふれあい、響きあい、前へ進もう。」

2013 ~ 2014 11 月 号 (No801)

11月例会プログラム

と き：2013年11月12日(火) 6:30p.m. ~ 8:30p.m.
 と ころ：名古屋 YMCA

司 会 伊藤 琢哉君
 開会宣言 会 長 川口 恵さん
 ワイズソング
 聖書朗読・祈祷 飯田 和也君
 食 事
 プログラム
 卓 話
 「フラを通して学ぶアロハスピリット
 ハワイとフラの歴史」
 石田由美子氏
 諸報告
 ハッピーバースディ
 ドライバースピーチ 久保田啓君
 讃美歌 II 161
 閉会宣言 会 長 川口 恵さん

同窓会

川 本 龍 資

最近、頻繁に「同窓会」の案内を頂く。小学校・中学・高校と、卒業〇〇周年の区切りで開催される場合が多く見受けられる。都合の付くかぎり、参加させていただきたいと思っている。

卒業校の同窓会もさることながら、「名古屋YMCA少年部」のこのたぐいの集まりが、ここ1-2年、頻度が多くなってきている。すっかり定着した根の上を愛する会主催の「春・秋の根の上まつり」を筆頭に、「大人の少年部(元少年部メンバーの集い)」・「東京根の上まつり(東京在住者の集まり)」等、単発開催で終わらずシリーズ開催へと発展している。私も、その最年少組の一人として参加させていただき、少年時代を懐かしむひと時を味わっている。

学生から社会人になると同時に、時間的制約や物事の優先順位の中でYMCAから離れた先輩方が今、再集結されるのは本当に嬉しい限りである。名古屋Y少年部に集った一時期が、お一人おひとりの中で大きな思い出として蘇っているのだから。

「昔Yだった人」をもう一度、YMCAにつながっていただく役割がワイズメンズクラブに在る！と特に強く感じている今日この頃である。具体的作戦をそろそろ始めようと思っています。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

※ 次号の執筆担当は木本精之助君です。宜しくお願いします。

第 2 例 会

と き:2013年11月19日(火) 7:00p.m. ~ 8:30p.m.
 と ころ:名古屋 YMCA
 プログラム:クリスマス例会の件他

会 長 川口 恵 書 記 千賀 将 深谷 聡
 副 会 長 飯田和也 会 計 塩田 保 川口 恵
 プリテン 久保田 平野 伊左治

10月クラブ出席		B	F	10月 個人出席						第 一 例 会 (10/8)	
在 籍	27名	切手	250pt	飯 田	○	木 本	○	中 野	◎	メネット	伊左治 尾関 五島 西村 長井
第1例会	20名	10月	現金 6000pt	伊左治	○	久保田	◎	中 村	○	メネット会 (10/19)	尾関 深谷 伊左治 西村 五島 加藤 飯田
メネット	5名			伊 藤	○	五 島	◎	西 村	○	アジア大会 (8月)	相馬、谷川、西村、義井
第2例会	6名			岩 田	○	小 谷	○	平 野	○	中部部会 (8/31)	尾関、尾関メネット、小尾、小谷、川口、川本、五島、相馬、谷川、長井メネット、西村メネット、義井、渡辺
メネット	0名	小計	6250pt	尾 関	○	塩 田	◎	深 谷	○	京都部会 (9/1)	谷川
ゲスト・ピシター	名	累計 (7~10月)	切手 1455pt	小 尾	○	鈴 木	功	義 井	○	六甲部会 (9/7)	川口、川本、谷川
メーキャップ	2名			加藤晃	◎	千 賀	◎	渡 辺	M	中西部会 (9/15)	川口、川本、谷川
出席率	84.6%			現金	6000pt	川 口	◎	相 馬	○	西中国部会 (9/28)	川口、谷川、渡辺
メネット会	7名	累計	7455pt	川 本	M	谷 川	○	九州部会 (9/29)	谷川	ふるさと交流会 (10/5)	谷川、五島・五島メネット
ゲスト・ピシター	0名			河 部	○	寺 田	○			○第1・第2	◎第1・第2 Mメーキャップ



第一例会 卓話者紹介 石田 由美子 氏

宝塚ワイズメンズクラブ会長・西日本区交流事業委員会
(YEEP STEP IBC DBC) 委員

■■■ 第1例会レポート ■■■

と き 2013年10月8日(火) 6:30pm~8:30pm
と ころ 名古屋 YMCA

今月の卓話はわざわざ大阪からお越し頂いた森本榮三氏(大阪高槻クラブ)が「偉大なる母、マザー・テレサに学んだ奉仕の心」と題し、ノーベル平和賞受賞者でインドの貧民の為の奉仕にそのエピソードを交えて、お話し頂いた。森本さんは1991年にマザーテレサの初来日時、東京での講演を聴き深い感銘を受け、その後マザーの日本各地訪問にも随行された。釜ヶ崎で同宿の折、「私に何か出来ることがありますか?」とマザーに問いかけ「カルカッタに来なさい」と招きを受けて以来、前後8回訪問を重ねて親交を深められた。その昔イエスキリストがガリラヤ湖畔でシモンら4人の漁師たちに「来なさい」と告げられ、彼らが全てを捨てて使徒となったエピソードを思い起こさせる。

マザー・テレサは一瞬で人の人生を変換させるような偉大な存在のお一人であった。マザーは1910年マケドニア生れ、18歳で献身、19歳でカルカッタに派遣され高校の教育に携わられた。36歳の旅行中「修道院を出て貧しい人々と共に住み、助けよ」と神の声を受けて決意し、スラムでの献身的活動を開始。40歳で「神の愛の宣教者会」を設立、式を迎えて人々の家、孤児院の家、ハンセン病患者の家等を次々に



開設して救済に尽くされた。会は「清貧、貞潔、従順、最も貧しい人に仕える」を決まりとし、「愛をもって全ての人に尊厳を着せる」ことを高く掲げている。死期に近い人に、その人の宗教を確かめて、それに従って葬られたことは、真実の愛の在り方を考えさせる。マザーは1979年ノーベル平和賞を受賞、恒例の祝賀晩餐会の費用は、マザーの希望により貧困救済資金として捧げられた。

1997年9月カルカッタにて心臓発作のため87歳で召天され、葬儀はインドの国葬として行われた。親交のあったダイアナ元王妃の不慮の事故死の5日後であった。

森本さんのお話は、この小柄な愛の巨人の色々なエピソードや日常生活など、親しみをこめてお話いただき、生き生きとした血の通った一人の女性が生涯信ずるところを貫き、正しい道を歩まれた姿を、見事に描き出して頂いた。感謝。

(塩田 保)

※ 次号の執筆担当は、谷川修君です。宜しくお願いします。



■■■ 第2例会レポート ■■■

と き 2013年10月15日
と ころ 名古屋 YMCA

1) クリスマス例会について

12月14日(土)

礼拝 17:20~17:40 中央教会

祝会 18:00~ 東京第一ホテル錦

企画、会費、司会者などの詳細については後日決定する

2) 例会片付けに関して

例会後の片付けをメンバー全員で。少なくとも一人一つずつは下に荷物を運ぶように。

率先して行動することがワイズメンの本来の姿である

☆クリスマス例会 12月14日(土曜) 南山と合同

5時20分から40分 名古屋中央教会にて礼拝

6時から 第一ホテル錦(栄)にてクリスマスパーティ

10月例会欠席者は11月例会にて参加人数を報告してください。

☆9月例会卓話者の大西コメントのSTEP報告が西日本区HPにあります。

谷本久美子メネット事業主任より、部会のメネット事業報告が10月1日発行の理事通信10月号のP4に「メネット事業ミニ通信 第2号」にあります。

いずれも下記の西日本区HPのURLをクリックしてください。http://www.ys-west.or.jp/

鈴木武二先生（ワイズ）を悼んで

敬愛してやまない鈴木武二先生（ワイズ）が10月25日夜8時過ぎ、神様のもとに召されました。享年94歳でした。葬儀は、新潟の中心街にある東中通教会でとり行われ、名古屋クラブからは、小谷ご夫妻と小尾ご夫妻、そして私谷川が参列させて頂きました。小谷治郎ワイズが、参列者を代表してお別れの言葉を述べられました。

鈴木武二先生は、私ども名古屋キリスト教社会館が困難な状態にある時、YMCAとしての組織派遣が反対されるも、個人として理事に加わって頂き、再建にご尽力下さい

ました。重要な決断を次々と下され、現場に希望をもたらして下さいました。側にいるだけで、心からの安心感をもたらしてくれる、そんな鈴木先生との出会い、交わりを用意してくれた神様であり、YMCAであり、ワイズメンズクラブです。心からのご冥福をお祈りいたします。

（谷川 修）



鈴木先生宅に名古屋ワイズで訪問した時の写真です。

今月の聖句

「光は暗闇（クナミ）の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった」
ヨハネによる福音書 1：5

西村 清

「アンパンマン」の作者、やなせたかしさんが94歳で亡くなった。天声人語によると、彼の作品が売れるようになったのは50歳半ばで、遅咲きの人であったという。生活の厳しかった時、「一寸先は光」という言葉を支えにして自らを励まし、また作風を通して多くの人を励ました。「一寸先は闇」でなく、光であったという。アンパンマンは相手を一方的にやっつけない。絶対正義などないというのが持論であった。第二次世界大戦での出征体験から得たものであった。声高な正義は胡散臭い。本当の強さとはやさしさだと作品から教えられる。

高知で育った子供時代、出かけた帰りに電車賃を落とした。遠路を歩いてへとへとなった時、知り合いのおじさんにあ

んパンをもらって元気が出た。ひもじい人に顔をちぎって食べさせるヒーローは、そんな思い出が下敷きにあったという。冒頭の聖句はクリスマスの時に読まれることばですが、まさに光の中に希望を見えています。聖書では光はイエス・キリスト、そこに希望をおくというのがクリスチャンの生き方です。どんなに苦しみ、悩み、絶望と思えるような状況にあっても、なおそこに光が輝いている。やなせさんはクリスチャンだったと聞きました（真偽のほどはわかりません）。彼の作風にはその精神が脈々と流れているように思うのです。光を見つめて人生を歩もうとされたようにも思われます。

ローマの信徒への手紙5章2～5節に、「今は信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています。そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです。苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。」とあります。苦しみや、たとえ絶望があっても、そこに光が輝いている。そしてそれが見えてくる。アンパンマンの作者やなせたかしはそんな思いを抱きながら作品を描いたのではないかと推察しています。

『ワイズメンの賢い話』(No209)

『ワイズメンの賢い話について』

先日、久保田さんから、「ワイズメンの賢い話」を12月で終了したいというお話がありました。私自身も、体調の問題があって、このところ例会には、ほとんど出席出来ずに、いよいよ本格的な治療を始める時期となっていましたので、当方から申し出て原稿を書くことを御断りしようと思っていましたので、喜んで了承させて頂きました。既に、10年以上も前に、澤正弘さんの後継者として、「賢い話」の原稿を書くことになったのですが、最初からこの原稿を書くことには自信がありませんでした。久保田さんから「気軽に読んだ後で、なるほどと思えるような文章が良いのではというアドヴ

ァイスをいただいたのですが、現実には、なかなか難しく、たいへん苦勞しました。出来るだけ聖書に基づいて、キリスト教とは直接に関係のない人たちに対して、ご理解していただけるような内容にしたいと思っていましたが、なかなかそのようにはならなくて、かえって皆様にご迷惑をおかけすることになってしまったかも知れません。丁度、私の前に原稿を書いておられた澤正弘さんは、今年の6月に天に召されたので、「賢い話」を終了するのは、適当な時期であると思います。内容的には、私自身のことになってしまいますが、12月に最後の原稿を書かせていただいて「賢い話」を終りとさせていただきたいと思います。これまでお世話になった方々に対して、心より御礼申し上げます。（寺田仁計）

